

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進本部本部員会議 議事要旨

1 日時

令和6年6月17日（月）13:55～14:20

2 場所

県庁6階特別会議室

3 出席者

配席のとおり

4 議事概要

<議題>

【1】岐阜県DX推進計画のフォローアップについて

【2】DXの具体的な取組みについて

【3】生成AIの試験利用について

【大森副知事】

電子契約の導入によって短縮された6日分の時間は、どのように活用されているのか。契約が早く締結されることで、仕事が早くなったということか。

【デジタル推進局長】

これまでは郵送でやりとりしている時間、業務が止まっていた訳だが、電子契約の導入により契約を速やかに終わらせ、次の業務に進んでいけるという環境の整備ができたと考えている。

【大森副知事】

デジタル化はそれ自体が目的ではなくて、仕事を早く進めるためのものだという事。成果が出るデジタル化を進めてもらいたい。

報告のあった都市建築部のペーパーレス化の取組みでいうと、脱炭素の観点、経費削減の効果もあるが、デジタル化することにより仕事が早く回せるという要素を重視しているように感じるので、そういう意味で他の部局も取り入れてもらいたい。ただし、紙をなくすということ自体が目的ではなくて、仕事の効率化、効果を上げるということが重要

【古田知事】

取組みの良い事例として都市建築部のものを報告してもらったが、今後も、各部のいろいろな事例を持ち寄って共有しても良いと思う。

<総括コメント>

【古田知事】

岐阜県DX推進計画の取組みも3年目に入り、2年目の実績と今後の方針について報告があった。都市建築部の例にあるように働き方改革にも繋がるし、ひいては県民サービスの向上にも繋がるので、引き続き取組みを進めてほしい。

生成AIについては、そのリスクを勉強し、議論する姿勢も必要だと感じた。アメリカにはAIインシデントデータベースというものがあり、参考にしているケースもある。イタリアのサミットでは、ローマ法王がAIについて危機感を訴えるという場面もあるくらい、世界的に偽情報の顕在化などが問題となっている。

県として、このような内外の状況も考慮しながら、行政としてのリスクというものを並行して検討してもらいたい。いずれにしてもこれは道具であり、道具は使いこなしてこそである。リスクも十分踏まえて活用すること。